

授業科目 老年看護学実習Ⅱ	科目概要・形式 2単位 90時間 実習科目	配当年次 博士前期2年次 前期開講	オンライン参加 不可
科目責任者	出員 裕子		
科目担当者	出員 裕子, 長内 志津子, 花田 麻由美		
1. 科目のねらい・目標 多様な療養の場における看護の特徴について理解を深めるとともに、多様な健康レベルにある高齢者を包括的にアセスメントし、高齢者自身が希望する場での豊かな暮らしを実現するための、家族との橋渡しおよび多職種・多機関との橋渡しをする調整能力を修得する。また、地域包括ケアシステムを推進する上で老人看護 CNS に期待される役割を探求する。 到達目標 [1] 高齢者の包括的なアセスメントに基づき、QOL 維持・向上にむけてサポート体制を組織化するために連携の必要な職種・機関との調整について計画することができる。 [2] 入院中の患者の意思表示を支援するとともに退院支援ニーズを把握し、患者が望む退院後の生活の実現に向けて、指導者に助言を受けながら必要な調整を実践できる。 [3] 特別養護老人ホームあるいは訪問看護ステーションにおける実習では、療養の場・高齢者の特性を考慮し、より高いレベルの QOL 実現に向けて必要な援助とケアチーム内外で行われている調整について理解できる。 [4] 地域包括ケアシステムにおける病院（入院・外来）・施設・地域の諸機関の関連を踏まえ、老人看護 CNS の役割を考察し説明できる。 [5] 実習計画の立案から実習指導者との相談・調整や看護実習の実践、実習の振り返りや自己洞察に主体的に取り組むことができる。			
2. 授業計画・内容 <実習の展開> 1) 病院においては医療連携室・透析等外来診療部門の協力のもと、退院支援が必要な患者や通院治療をうける高齢者各 1～2 名を受け持ち、実習指導者のもとで調整、援助を展開する。 2) 訪問看護師ステーション及び特別養護老人ホームにおいては、高齢者 1 名を受け持ち、実習指導者のもとで必要な調整や援助に参加する。 3) 訪問看護師ステーション及び特別養護老人ホームにおける実習は、履修者の所属機関の特徴や履修者の臨床経験の内容をふまえて、課程修了後の実践に、より活用が期待される施設を教員との相談により決定する。 4) 実習指導者、教員のスーパービジョンを受ける。実習指導者とは毎日振り返りの時間をもち日々の疑問や改善点を明らかにして翌日の実習に臨む。教員とは定期的に対面あるいはオンラインで面談し、実習の進捗を報告し、必要な助言を受ける。 5) 実習におけるカンファレンスについて学生自身が企画運営し、実習指導者と指導教員の参加の下で行う。カンファレンス資料は事前に配布・配信することとする。			
3. 教科書・参考書 専門科目で使用した教科書、授業資料			
4. 成績評価方法 評価は、実習達成度について教員と実習指導者との協議を踏まえ、かつ実習及び事例報告を通じて、担当教員が単位認定を判定する。 評価項目：実習目標の達成度（実習記録）、実習レポート、実習に対する態度・姿勢			
5. 受講要件 なし			
6. 社会人学生に対する配慮			
7. その他			